学会記事

日本きのこ学会第 29 回（2026 年度）大会報告

日本きのこ学会第 29 回大会を 2026 年 8 月 31 日～9 月 1 日に新潟県新潟市の朱鷺メッセを会場として開催しました．その概要について報告いたします．

新潟市での開催は，1998 年の第 2 回日本応用きのこ学会以来，実に 28 年ぶりの開催となりました．今回の大会では，実行委員を一正蒲鉾株式会社，ユキグニファクトリー株式会社，長岡工業高等専門学校，新潟大学で構成し，大会の運営を行いました．実行委員の数が限られていることから，できるだけシンプルな形での実施方法を検討し，学生による発表だけを口頭発表とし，一般の方の発表は全てポスター発表としました．また，ポスターを見るだけでは議論が深まりにくいとの考えから，ポスター発表の前にフラッシュトークとして 1 演題につき 2 分間，ポスターの概要やアピールポイントを説明する時間を設けました．フラッシュトークの導入は，この学会では初めての試みになります．なお，前回大会で実施していた Zoom 配信によるハイブリッド形式は，今回は取り止めとしました．



口頭発表における質疑応答

大会参加者数は，事前登録参加者 172 名，当日参加者 22 名，招待者やスタッフを合わせると 201 名と非常に多くの方に参加していただきました．研究成果報告数は，学生口頭発表 17 題，一般ポスター発表 48 題，高校生による特別発表 1 題と多くの成果報告が行われ，活発な議論が交わされました．その中で，学生優秀発表賞及び優秀ポスター賞の審査を行い，9 題を選定し，表彰しました．



シンポジウムでの総合討論

大会 1 日目は，中谷誠会長及び大会実行委員長の挨拶に始まり，学生口頭発表を行いました．続いて「食と健康を結ぶきのこ－きのこの健康機能に関する研究・取組－」をテーマにシンポジウムを行いました．シンポジウムでは，「胞子欠損性エルゴチオネイン高含量タモギタケの開発」と題して東智則氏（北海道立総合研究機構林産試験場），「腸内細菌を育み健康に！－菌活のススメ－」と題して小林仁氏（ホクト株式会社），「白雪茸を機能成分とする機能性表示食品開発苦労談」と題して津野芳彰氏（マイコロジーテクノ株式会社），「高齢化による脆弱性骨折の増加とビタミン D 欠乏の実態とビタミン D 強化マイタケによる効果の検証」と題して山本智章氏（医療法人愛広会 新潟リハビリテーション病院）にご講演いただきました．講演後には川口信久氏（一正蒲鉾株式会社）の進行によりパネルディスカッションを行い，健康食品としてのきのこの将来性などについて熱い議論が繰り広げられました．また，夜には隣接するホテル日航新潟の 4 階朱鷺の間に移動し，懇親会を開催しました．懇親会にも 155 名と多くの方に参加していただきました．実行委員長及び会長挨拶に続き，来賓としてお招きした新潟大学農学部の西海理之学部長にご挨拶いただきました．また，酒どころ新潟らしく鏡割りを行なった後，名誉会員の鈴木彰先生のご発声により日本酒で乾杯を行いました．今回の懇親会では新潟の酒造会社



懇親会での鏡割り



懇親会の日本酒コーナー



懇親会の様子

6社よりご提供頂いた日本酒や地ビールを並べた日本酒コーナーを設置し，多くの参加者に飲み比べを行なっていただきました．また，一正蒲鉾株式会社からはビタミンDマイタケ希なり，カニカマオホーツク，うな次郎，ユキグニファクトリー株式会社からはマイタケナゲット，マイタケ極，エリンギ，ブナシメジ，株式会社マルハチ村松からは出汁をご提供いただき，参加者の皆様にはそれらを使用した料理を十分にお楽しみいただけたものと思います．懇親会の途中には，山口大学の阿座上弘行先生より次回大会（第30回大会）の案内をしていただき，最後は副会長の木村榮一氏による締めの挨拶で懇親会を締め括りました．



上田光宏先生による受賞講演

大会2日目は，学会賞の授賞式及び受賞講演を行いました．今年度の学会賞は「きのこの生産する酵素の生理・生化学的研究とその利用」により上田光宏氏（大阪公立大学大学院）が受賞されました．続いて一般の方のポスター発表及び高校生による特別ポスター発表を行いました．ポスター発表は49の演題を第1部から第4部に分け，発表会場において各部12～13演題のフラッシュトークを聞いた後にポスター会場に移動してポスターを見るという行程を4回繰り返しました．発表会場とポスター会場を4回行き来する必要があったことから多少慌ただしく感じましたが，話を聞いてすぐにポスターを見ることができたため理解や議論が深まったのではないかと思います．全ての発表終了後，学生優秀発表賞及び優秀ポスター賞の授与式を行いました．今大会における受賞演題は以下の通りです．

学生優秀発表賞

G6　ヒラタケにおいて正常な細胞壁形成に必須な3つの転写因子Mbp1，Swi6及びRlm1の役割分担の解明
○小島隼星，和泉貴哉，森　咲弥，亀井志乃，河内護之，中沢威人，本田与一（京大院・農）

G8　シイタケ由来のトレハロース代謝関連酵素に関する研究
○中村　結[1)]，中澤昌美[1)]，阪本龍司[1)]，丸山正恵[2)]，原田慎嗣[2)]，石川真梨子[2)]，小林　仁[2)]，大内謙二[2)]，稲冨聡[2)]，上田光宏[1)]（[1)]大阪公立大学院・農，[2)]ホクト・きのこ総合研）

G10　タモギタケに含まれるアセチルコリンエステラーゼ阻害活性物質の精製
○高畠柊人[1)]，原　崇[2)]，三亀啓吾[2)]，北岡本光[2)]，城斗志夫[2)]（[1)]新潟大院・自然科学，[2)]新潟大・農）

G12　合成ストリゴラクトンGR24が外生菌根菌*Rhizopogon roseolus*とその内生細菌に及ぼす効果
○森田紗和[1)]，Mutiara Nur Pratiwi[2)]，青木真愛[3)]，霜村典宏[3)]（[1)]鳥取大学院・持社創生，[2)]鳥取大学院・連農，[3)]鳥取大・農）

G14　食用培地を利用したきのこ栽培と菌床の食品素材化
○金正育也[1)]，越智彩名[2)]，高雄麗久[2)]，吉田有希菜[2)]，西川結唯[2)]，福田泰久[1,2)]，白坂憲章[1,2)]（[1)]近畿大院・農，[2)]近畿大・農）

優秀ポスター賞

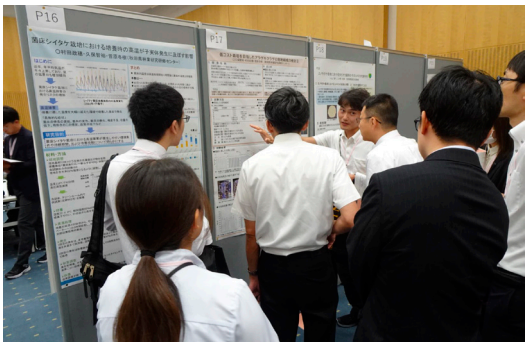
P2　特定防除資材（食酢）を用いた菌床栽培シイタケ害虫防除とその応用に関する検討
○小池玲英[1)]，玉井一彦[2)]，野﨑耕作[2)]，小堀富広[2)]，後藤史和[1)]（[1)]株式会社北研，[2)]アース製薬（株）・赤穂研究部）

P37　マイタケが健常高齢者の認知機能に及ぼす影響～ランダム化プラセボ対照二重盲検平行群間比較試験～
○常喜江理[1)]，加藤真晴[1)]，増田有紀[2)]，小西守周[2)]，桑原直子[3)]，中川沙織[4)]，大野美穂[5)]，大畑修三[5)]，加藤節司[5)]，橋本道男[6)]（[1)]ユキグニファクトリー，[2)]神戸薬大，[3)]新潟食農大，[4)]新潟医福大，[5)]社医）仁寿会加藤病院，[6)]島根大）

P40　EUに於けるマイタケの市場価値研究
○沼田史江[1)]，川口信久[1)]，Pablo de Frutos Madrazo[2)]，Laura Mateo -Vivaracho[2)]，Elena Lucas[3)]，JoaquinLatorre Minguell[4)]，Fernando Martínez Peña[4,5)]（[1)]一正蒲鉾，[2)]Valladolid Univ.，[3)]La Lobita，[4)]欧州菌学研究所，[5)]スペイン国立農業食品技術研究所）

P45　ブナシメジの分類と学名における混乱の解消正名としての*Hypsizygus tessulatus*

○仲野翔太[1)], 中越（小池）歩[1)], 原田慎嗣[1)], 後藤知晶[1)], 石川真梨子[1)], 奥　竹史[1)], Greg Thorn[2)], 大内謙二[1)], 長澤栄史[3)]（[1)]ホクト株式会社きのこ総合研究所, [2)]University of Western Ontario, [3)]一般財団法人日本きのこセンター菌蕈研究所）



ポスター発表の様子

以上，今大会の 2 日間，多くの方にご参加いただき，また特に大きなトラブルもなく盛会のうちに終えることができました．これもひとえに会員の皆様のご理解とご協力，そして団体会員の皆様の広告掲載等のご協力のお陰と感謝しております．また，今大会では「食の新潟」を多くの皆様に知っていただきたく，新潟県の多数の食品企業にご協賛いただき，協賛商品を懇親会や休憩室で提供したり，参加者にお土産として配布しました．ご協力いただいた皆様に本誌面をお借りして心よりお礼申し上げます．また，大会の準備の段階からお力添え頂きました中谷誠会長，集会担当理事として終始サポートしていただいた金野尚武先生及び福田泰久先生，理事の皆様に深く感謝いたします．最後に，大会事務局を務めていただいた一正蒲鉾株式会社の川口信久氏及び沼田史江氏，ともに大会実行委員を務め大会の企画・運営を担っていただいたユキグニファクトリー株式会社の下田隆史氏，新潟大学の三亀啓吾先生，長岡工業高等専門学校の田﨑裕二先生，大会の開催に対しご支援・ご協力いただいた新潟観光コンベンション協会の高杉淳氏，そして大会当日にご協力いただいた大会スタッフの皆様に改めてお礼申し上げます．

（第 29 回大会委員長　新潟大学　城 斗志夫）



学生優秀発表賞及び優秀ポスター賞の受賞者